

福岡大学で学ぶ

# 基本姿勢

## はじめに

キャンパスが活気に満ちていることは、大学の構成員である学生と教職員のみならず、広く社会一般の願いであります。中でも、学生の活力が大学の活力の源泉として大きな役割を果たしていることは言うまでもありません。皆さんには、柔軟な思考力、新鮮な発想、日々進化していく科学技術を使いこなす力、そして、なによりもまさって少々無理がきく体力があります。皆さんのこのような潜在力の中に、現在の不透明な時代を切り開く鍵がひそんでいると信じています。

## 1. 学ぶ姿勢について

大学で学ぶことの基本は、一つには系統だった知識を得ることであり、もう一つはその知識を用いて何かをおこなう能力を身につけることでもあります。特に大学では後者が重視されます。すなわち、論理的な思考能力を身につけ、そして自分の考えを論理的に伝える能力を養うことと言えます。

深く学ぶと感動が生まれます。浅く楽をした学びでは充実感は決して湧きません。実りある学びは、堅実でしっかりした行動によってのみ習慣化されることを強調しておきます。

次世代を担う者として、日本や世界について幅広く学んでほしいと思います。そのためには、多くの人と交わり、本を読み、知的好奇心を奮い起こし、自ら課題を見つけて解決する姿勢を培ってください。

## 2. 課外活動の役割について

大学は、最終的には人間をつくることです。この役割を果たす場として課外活動が大きな役割を果たしています。皆さんの価値観や主体性のよりどころである感性や意志の発達もそこで得られるのです。

確かに、今日の情報化社会では、知識は様々なメディアを通して提供されているので、知識を得ることはそれほど難しくありません。しかし、課外活動における教員と学生、あるいは学生同士の人間的な触れ合いの中で得られる知識を軽んじるべきではありません。なぜなら、これらの体験を通して、モラルや倫理とは何かということよりも、どのようにすればモラルや倫理観が修得できるのかといったことが理解できるようになるからです。課外活動の場には、大学生が生きていく社会や会社の縮図があります。時として、就職に有利だと言われるのは、その人がこのように課外活動で様々なことを学ぶからです。

## 教育研究の理念

「人材教育」と「人間教育」の共存  
「学部教育」と「総合教育」の共存  
「地域性」と「国際性」の共存



福岡大学の教育研究は、「建学の精神」に基づいた全人教育を理想とし、この三つの共存をはかることによって、真理と自由を追求し、自発的で創造性豊かな「人らしき人」を育成し、社会の発展に寄与することを目的とするものです。

## 3. 自分より高いものを目指すことについて

私たちを取り巻く世界には、やってみなければ分からないことが山ほどあります。様々なことを経験することにより、何がどうあるべきかが分かってくる。その際、心はより高いもの、より大きなもの、偉大なるものを目指すことは言うまでもありません。その理由は、進歩向上する人は必ず高い目標に向かって進もうとするからです。大きな目標が見つからない人は、とりあえず目の前のことに集中すべきです。そうすれば、大きな目標は自ずと姿を現してくれるものです。

以上、学びの要点について述べました。皆さんが学生としての義務と責任を十分に自覚し、そして、貧弱な学びの結末と優れた学びの成果との違いを深く認識して、大学生活を始めるにあたっての決意を新たにすることを望んでいます。

福岡大学の校歌に次の一節があります。味わってください。

**「輝ける明日を望みて、若き日の今日を学ばん」**

(学長 山下 宏幸)

## 4. 知のあり方の変化について

情報化社会では、知の性格は普遍性よりも時代性、脈絡よりも断片性といった、より時事的な好奇心と実用性の方が優位を占める傾向にあります。そこで注意を促したい点は、情報を巧みに使いこなす技術だけではこれからの情報化社会に真に因應していけないということです。本当に必要なことは、この時代を生き抜くための基礎知識を修得した上で、様々な問題の把握と解決力を身につけること、あるいはモラルの涵養など深い道徳性と精神性を身につけることだといえます。